

## 15 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答要約

- Q) 通信・プリンティング機器の下期の目標が通常の季節性に比べると少し高すぎるように感じる。地域別の状況と合わせて解説してほしい。
- A) 客観的にみると、高い目標ではないかという皆さんの見方については、決して否定はしない。地域別には、欧州や日本は比較的安定しているが、米国は価格的に厳しい状況が続いている。新興国は通貨安の影響により、中南米やロシアは難しい状況となってきている。中国も、セルアウトは去年並みを維持しているが、本来成長市場であることを考えると、厳しい状況と言える。
- Q) 新興国向けの大容量インクタンクモデルのインクジェット複合機の状況はどうなっているのか？
- A) 販売は好調で、当初の想定を上回る推移となっている。通貨安などで減速基調の新興国におけるビジネスを支えてくれている。
- Q) 産業機器、第 2 四半期は大きく減収となったが、いつごろからの回復を見込んでいるのか？
- A) 足元の受注環境は、中国の景気減速の影響もあり、弱含んでいる。ただ、IT 関連の受注に改善の兆しもあることから、第 4 四半期での回復を期待している。
- Q) ドミノ事業で第 2 四半期に 2 億円弱の利益が出ているが、のれんの償却後は赤字になるはずではないのか？
- A) ドミノ事業に関しては、のれん等の償却の影響により、年間で▲27 億（取得費用を含めると▲45 億）の営業損失になるという業績予想は変えていない。第 2 四半期については、のれんの償却計算の算定が終了していないことから、暫定値による計算を行った。その結果、第 2 四半期で利益が出るという決算となった。